

よりよい社会づくりに意欲をもって、大学生活の主人公に

神戸女学院大学名誉教授・石川康宏

新しく大学生活を始める皆さんに、メッセージを寄せる新入生歓迎の企画です。大学生活をどう過ごすか、大学ではどんな経験ができるのか。執筆は、神戸女学院大学名誉教授の石川康宏さんです。

民青の仲間と四日市へ

京都の立命館大学に入れた『恐るべき公害』(庄司光・宮本憲一、岩波新書、1964年)、『日本の公害』(同著、岩波新書、75年)などを追求めた。当時の四日市は、三菱など多くの大企業によって造られた石油化学コンビナートからの汚染物質のために、四日市ぜんそくという公害病を大量に発生させた町として有名でした(右写真)。

大学が与えるカリキュラム、自分でつくるカリキュラム

大学での学びといえ、皆さんの中には高校までの授業で「4大公害」というのを習った人もいられるかもしれません。その1つの現場がこの四日市でした。ぼくたちが訪れたのは事情が「ずいぶん改善された」後のことでしたが、それでも電車から降りた時に空気がブーンと酸っぱく感じられたことを覚えています。1日かけて、市役所で環境調査の説明を受けたり、そのデータの冊子をもったり、市民の皆さんに簡単なインタビューをさせてもらったりもしました。事前に、先輩に教えら

大学での学びといえ

を讀もう(内田樹先生との共著、かもがわ出版、10年他)といった本を書いています。その中で話しているのがマルクスという人の本を初めて読んだのは、学生同士の読書会のことでした。教室での授業の

市民の力で大企業も政治も動かし

四日市ぜんそくもその一つだったかつての公害は、汚染物質の排出により、巨大な企業が周辺地域に深刻な被害を及ぼすものでした。そこで、ど

四日市ぜんそくもその一つだったかつての公害は、汚染物質の排出により、巨大な企業が周辺地域に深刻な被害を及ぼすものでした。そこで、ど

例え、ぼくは『マルクスのかじり方』(新日本出版社、2011年)や、『若者よ、マルクス

例え、ぼくは『マルクスのかじり方』(新日本出版社、2011年)や、『若者よ、マルクス



▲1960年～70年代、四日市市では、工場からの煙で空が覆われていた(提供:四日市市)

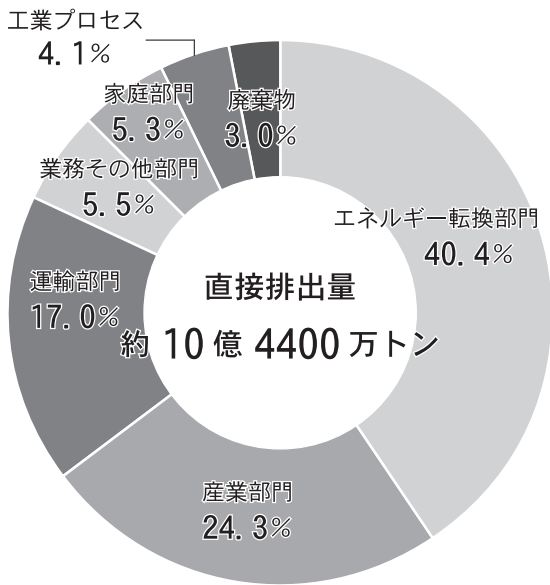
償や工場設備の改善がなされました。同時に、このとりくみは政治も大きく動かして、指定された有害物質を基準値以上の濃度で空や海や川などに排出してはいけないとする法律が、日本のあらゆる企業を規制するようになりまし

この法律が、深刻な被害を生んだ当事者だけでなく、あらゆる企業を規制の対象としたことには、とても大きな意味がありました。もうけの追求を原動力とする「資本の論理」はあらゆる企業に共通したもので、いつまた同じような問題を別の企業が生みださないとも限らない。そういう理解が社会に共有されていったからです。この法律で、公害はずいぶん改善されました。多くの市民が力を合わせれば、どんなに大きな企業でも、その大企業の味方にしか見えない政府でも――当時は自民党の単独政権でした――、それを動かすことが可能だということも示されたのです。

とはいえ、大学生のぼくが駅前ですぐに吸った空気がまだ酸っぱく感じられたのも事実です。それは当時の市民によるたたかいの到達点――まだ課題も残っていた――をリアルに表したものであり、よりよい社会づくりは一度の変化だけでなく、そうした変化を積み重ねる努力を求めるものだということも教えてくれています。

知る学ぶ

日本の部門別 CO₂排出量の割合 (2020 年度)



出典：温暖効果ガスインベントリオフィス
全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) ホームページを基に作成

ある学生の卒業論文

さて話は飛んで、この3月に神戸女学院大学を卒業した学生の1人が、卒業論文のテーマに「神戸製鋼の石炭火力発電」を取り上げていました。皆さんの中には、気候危機に深刻な不安を抱いている人も多いでしょう。気候危機を進める地球温暖化ガスの主力がCO₂ (二酸化炭素)で、日本社会でそれを直接排出しているのは圧倒的に産業部門であり、その中でも大きな比重を占めるのが発電を中心とするエネルギー転換部門だということも、すでに知っているかもしれません(左図)。

学びをよりよい社会づくりに結んで

新入生の皆さんに期待したい学びのポイントの2つ目がここにありま す。それは学びをよりよい社会をつくること、それを通じて皆さんのより充実した毎日をつくることに自覚的につなげてほしいということです。4年後に「大学は卒業したものの、いったい何を学んだのやら」ということ

これに真正面から逆らって2002年に1号機、04年に2号機、さらに22年に3号機、23年に4号機と、神戸製鋼は石炭火力発電所を次々と新設し、稼働させてきました。日本の政府も全てを認めてきたのです。これはいったいどうしたことか、どうすればこういふ事態を是正することができるのか。卒論の課題はそこに置かれるものとなっていました。

「子ども食堂」がありま すが、GDP世界第3位の日本社会で子どもの貧困がどうして解決できないのでしょうか。不登校とされる子どもが全国に24万人もいるのはどうしてで、どうすれば子どもたちにもっと生きやすい社会をつくることができる

気候危機の問題にはすでに触れましたが、海洋プラスチックなど地球環境をめぐる問題は他にもたくさんありますし、貧困は日本だけでなく世界各地の問題でもあり、また世界各国間の格差の問題としても考えることができます。さあ、どうで

自分の時間の主人公に

最後に、1人で自分を考える時間をもつことの大切さにも触れておきます。1年生は時間割の多くが外国語など必修科目で自動的に埋まってしま います。それらの授業に出席して、あとはアルバイトと授業の予習だけで毎日が終わってしまうというにもなりがちです。しかし、そうして周

りの予定に振り回され、忙しさにいわずに流されていく毎日になると、何のために大学に通っているのかという理由が見えづらくなってしまいます。そこで必要になるのが、自分が時間の主人公になる工夫です。手帳やカレンダーを使っている人は多いでしょうが、大切なのはそこに授業やア



【抗議声明】
神戸発電所4号機
営業運転開始

住民の健康・気候悪化リスクを高める
石炭火力発電所の稼働を容認できない

2023/2/1
神戸の石炭火力発電を考える会

▲神戸製鋼の石炭火力発電に抗議する市民団体 (神戸の石炭火力発電を考える会ホームページより引用)

しょう。こういうリアルな現実社会の解決課題を念頭に置いてみると、皆さんの大学の正規のカリキュラムにも、新しい関心がもてたり、学びの意欲が新たに生まれてきたりするところがあるのではないでしょうか。

をはっきりさせるところにあります。そうして毎晩必ず手帳を開いて、予定とおりにできたことは線で消し、できなかったことは次にいつやるのかをはっきりさせ、新しく入ってきた予定も忘れずに書き込んでいく。そのように予定のバージョンアップをくり返す習慣が身につけば、どんなに忙しいときにも自分の課題に沿って、うまく自分を操縦することができるようになります。そして、そのように着実に毎日を過ごす自分に自信をもつこともできるようになります。

「自分との約束」を書き込むことです。その空き時間に自分のカリキュラムに沿って自分を計画的に成長させられる大切な時間であり、手帳の最も重要な役割は、むしろその時間がどこにあるか